

# 攻防の状況から学ぶ剣道授業の実践的研究

## －「剣の理法」の視点を中心に－

牧野 祥子 （ 愛知教育大学 ）

### 1. 目的

中学校学習指導要領（文部科学省 2017）では、剣道について、第 1 学年及び第 2 学年で「打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすること」第 3 学年で「相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすること」と示されていることから、剣道の中心的指導内容は「攻防」であると解釈される。

そこで、本研究では、試合での「攻防」の状況から、学ばれている内容の可能性を明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究 I

#### 1) 研究方法

N 中学校 2 年生の剣道授業の実践研究で、単元の半分以上に試合を実施した。授業者は教職 12 年目の男性教諭である。

子どもの試合の動きを撮影した動画から、「攻防」をしている場面で対人的技能が出現している状況に着目し、これが学ばれている可能性について分析した。

#### 2) 結果と考察

試合の中で、出現した対人的技能として、フェイントをかける、タイミングを崩す、相手に隙をつくらせてから打つといった動きが見受けられた。またこれらの動きは「かつぎ面」や「面胴」という技とも捉えられる。このような動きは、教師が教えたのではないことから、試合の中で子どもが自発的に発揮したものであると考えられた。

このことから、試合経験を豊富に積ませることで、試合の状況に応じた対人的技能を子どもは自得していく可能性があると考えられた。

### 3. 研究 II

#### 1) 研究方法

H 中学校 2 年生 2 クラスの剣道授業の実践研究で、単元の半分以上に試合を実施した。授

業は筆者が行った。

毎回授業終了時に「剣道ノート」へ考えたことや気づいたことを子どもに書かせ、その記述内容から、学ばれている内容にはどのような可能性があるか検証した。

#### 2) 結果と考察

「剣道ノート」の記述内容を「攻防」と「精神」の上位カテゴリーに分類し、それを「KJ法」（川喜多 2017）を参考に類型化して下位カテゴリーとした。

「攻防」に属する下位カテゴリーは「相手が打とうとするところを打つ」「相手が打った後に打つ」「隙をつくらせる」など 20 に、「精神」に属する下位カテゴリーは「落ち着く」「自己の変化」「礼」などの 11 に分類した。これらを「剣の理法」の視点（「刀法」「身法」「心法」とする）（小川 2014）で学ばれている内容を考察した結果、「刀法」「身法」「心法」すべて学ばれている可能性があることが示唆された。また、剣道の精神性に関わる内容も悟っていたと考えられた。

### 4. 結論

本研究は、剣道授業の「攻防」の状況から学ばれている内容の可能性を明らかにすることを目的とした。その結果、剣道授業の試合における「攻防」の状況から①対人的技能の自得②「剣の理法」に関連した内容③剣道の精神性が学ばれている可能性があることが示唆された。

### 5. 主な参考文献

- 1) 川喜多次郎, 発想法 改版 (2017) 中公公論新社.
- 2) 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領.
- 3) 小川忠太郎 (2014) 剣道講話 新装版, 体育とスポーツ出版.